

蝉のおべべ 金子みすゞ
母さま、
裏の木のかげに、
蝉のおべべが
ありました。
蝉も暑くて
脱いだのよ、
脱いで、忘れて
行ったのよ。
晩になったら
さむかろに、
どこへ届けて
やりましょか。

今年の夏は酷暑。まだまだ暑さが続いています。

今年は、早くに蝉が鳴いたように感じましたが、いつしか鳴き声も聞こえなくなったようです。
あまりにも暑くて蝉も鳴けなかったのでしょうか…。

蝉のこどもは卵から生まれると、土の中にもぐって5年もの間、土の中でいるとか。

それから、外の世界に出て、生きているのは短い間。次の世代を残したら死んでいくそうです。

蝉の一生は短い。けれども子孫を残すという大切な役目があってそれをきちんと果たすのですね。

蝉が成虫になる時に木に抜け殻を残すそうです。

幼稚園でも数年前は抜け殻がたくさん木についていましたが、今年見つけたのは2つ。

自然もだんだんなくなったということでしょうか。

その抜け殻のことをみすゞさんは「おべべ」と言っています。

おべべとは最近ではめったに使わない言葉ですが、江戸時代頃から言われていた言葉で「洋服」のことを言います。

この詩で、まず、みすゞさんが、お母さんに向けて、ほのぼのしたお話をしていることが、何より素晴らしいと思いました。

そして、夜になると寒くなるので洋服を届けてあげる…というみすゞさんの優しい発想に心が奪われます。
お母さんはいったいなんとこたえたのでしょうか。



子どもの発見に耳を傾けてじっと聞いてあげることができることは、なんと素晴らしいことでしょう。

夏休み、どんなエピソードがありましたか…???